

SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 24年 3月
(第9 ～13週)

発行年月日：平成24年(2012年) 4月17日
発 行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 ^{*1}		
		1～2月		3月		1～12月				1～2月		3月		1～12月		
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	0	0	0	0	190	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	9	
	ベスト	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	1		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2	
	結核	40	3,643	24	2,913	337	31,467		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	2	0	6	
三類	コレラ	0	1	0	0	0	12		マラリア	0	5	1	6	0	78	
	細菌性赤痢	0	26	0	46	5	299		野兔病	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	92	3	65	71	3,938		ライム病	0	0	0	0	0	9	
	腸チフス	0	4	0	4	0	21		リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
四類	バラチフス	0	3	0	1	0	23		リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	26	0	12	0	61		類鼻疽	0	0	0	0	0	3	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0		レジオネラ症	1	102	1	51	12	819	
	A型肝炎	0	16	0	15	0	176	レプトスピラ症	0	1	0	0	0	27		
	エキノコックス症	0	1	0	2	0	18	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0		
	黄熱	0	0	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	3	127	2	74	2	814	
	オウム病	0	1	0	0	0	13		ウイルス性肝炎	0	25	0	20	1	249	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		急性脳炎	0	94	3	50	1	259	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	4	0	0	0	8	
	キャサスル森林病	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	28	0	16	2	136	
	Q熱	0	0	0	0	0	1		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	1	54	0	21	2	198	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	0	190	0	126	6	1,523	
	コクシジオイデス症	0	0	0	1	0	2		ジアルジア症	0	4	0	6	1	68	
	サル痘	0	0	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	3	0	1	0	12	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	1	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		梅毒	0	119	0	68	6	827	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0		破傷風	0	12	0	6	1	114	
	炭疽	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 ^(*)	0	0	0	0	0	10		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	11	0	11	0	73	
	つつが虫病	1	58	0	3	1	461		風しん	2	39	0	68	2	374	
	デング熱	0	20	0	16	1	112		麻疹	1	65	0	29	1	443	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	0	0	0	0	72
										細菌性赤痢のサル	0	1	0	0	9	37
										エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	0

(*)：感染症法の一部改正（平成23年2月1日施行）により、2月からの集計。－：未集計

^{*1} 感染症発生動向調査事業年報暫定数（国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在）

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。－：未集計
*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (3月)

＜結核＞ 24名
性別：男性 16名、女性 8名
類型：患者 12名
無症状病原体保有者 11名
疑似症 1名
病型：肺結核 7名
その他の結核 5名
無症状病原体保有者 11名
疑似症 1名

＜腸管出血性大腸菌感染症＞
性別：男性 3名
類型：患者 2名
無症状病原体保有者 1名
年齢：10ヵ月、7歳、64歳
血清型・毒素型：
O157・VT1+VT2 3名

＜マラリア＞ 男性・50歳
推定感染経路は蚊からの感染で、
推定感染地域はギニアです。
＜レジオネラ症＞ 男性 69歳
推定感染経路は不明で、推定感染
地域は日本国内です。

＜アメーバ赤痢＞ 女性 45歳、66歳
推定感染経路は経口感染および不
明で、推定感染地域は日本国内です。
また、病型は腸管アメーバ症です。

＜急性脳炎＞ 男性 6歳 女性 4歳、5歳
推定感染経路は飛沫・飛沫核感染
で、推定感染地域は日本国内です。
病原体は、インフルエンザA型です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

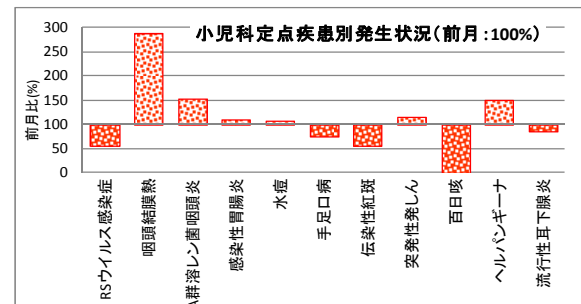
3月の概要

<インフルエンザ>

県全体では先月の約半減となっていました。第13週(3/26～4/1)の定点当たり患者数は大津市および高島保健所管内で警報終息基準値(10.00)を超えていました。また、東近江保健所管内では第11～13週(3/12～4/1)に、甲賀保健所管内では第12週(3/19～3/25)に再び注意報発生基準値(10.00)を超えていました。さらに、第3週(1/16～1/22)に発令されたインフルエンザ警報は、第13週(3/26～4/1)まで県内全域に引き続き発令されていました。

<小児科定点疾患>

右記グラフ(疾患別発生状況)に示すとおり、前月より大幅に増加した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)で、約3倍増となっていました。また、各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。



咽頭結膜熱-----草津、東近江および高島保健所管内からの報告がやや多くなっていました。
A群溶レン菌咽頭炎---前月の約1.5倍増となっていました。特に、高島保健所管内では、第10～13週(3/5～4/1)に警報発生基準値(警報開始基準値8.00、警報終息基準値4.00)を超えていました。
感染性胃腸炎-----長浜および高島保健所管内からの報告がやや多くなっていました。

<眼科定点疾患><基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月の3倍増となり、大津市、甲賀、長浜および高島保健所管内からの報告でした。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患であるクラミジア肺炎は東近江保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は先月より微増し、東近江および長浜保健所管内からの報告があり、長浜保健所管内からの報告がやや多くなっていました。また、細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<インフルエンザ(入院)>

第9～13週に、インフルエンザ入院患者 28名の届出がありました。性別では、男性 12名、女性 16名でした。年齢別では、1歳未満 3名、1～4歳 7名、5～9歳 8名、10～14歳 1名、40～49歳 1名、60～69歳 1名、70～79歳 1名および80歳以上 6名でした。全国における第9～13週の入院患者数は2,471名でした。また、滋賀県における平成23年第36週～平成24年第13週の入院サーベイランスの概況は、下記の表のとおりです。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

インフルエンザ入院
サーベイランスの
概況(滋賀県)

期 間		入 院 時 の 状 況			
		ICU入室	人工呼吸器の使用	頭部CT検査、頭部MRI検査脳波検査のいずれか実施	いずれにも該当せず
平成23年	9月	0	0	0	0
	10月	0	0	0	0
	11月	0	0	0	1
	12月	0	0	0	5
平成24年	1月	1	2	8	31
	2月	1	1	16	53
	3月	0	1	7	23
計*1		2	4	31	113

*1:一部重複あり

(人)

性別・年齢別発生状況(滋賀県)

年 齢	入 院 患 者 数		
	男性	女性	計
1歳未満	9	6	15
1～4歳	20	18	38
5～9歳	19	9	28
10～14歳	2	2	4
15～19歳	1	0	1
20～29歳	0	0	0
30～39歳	0	3	3
40～49歳	1	1	2
50～59歳	0	2	2
60～69歳	3	1	4
70～79歳	5	9	14
80歳以上	7	17	24
合 計	67	68	135

(人)

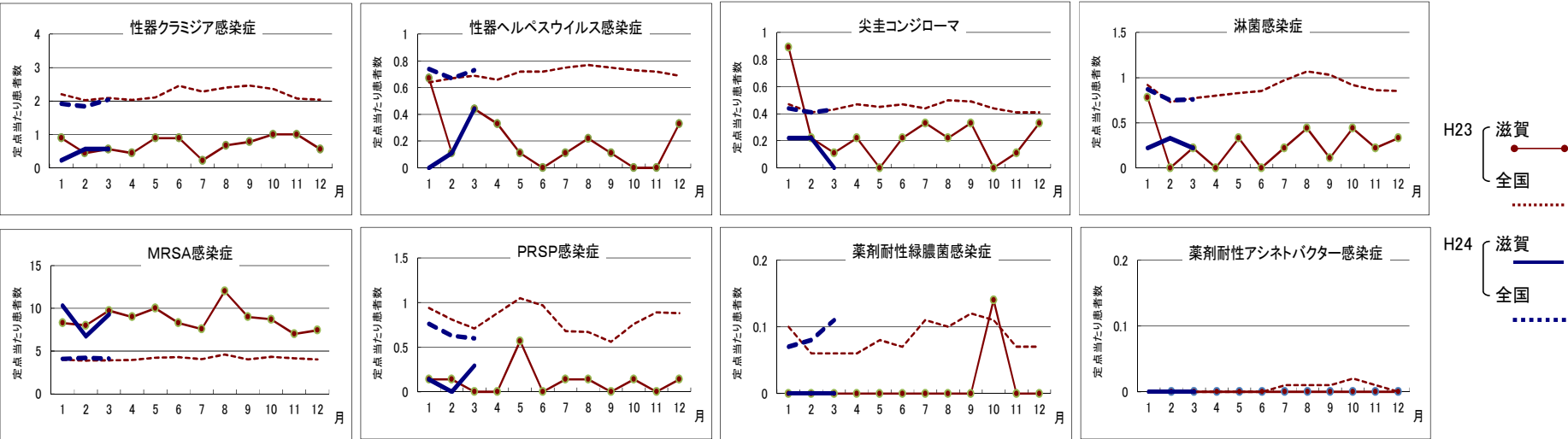
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 24年3月)

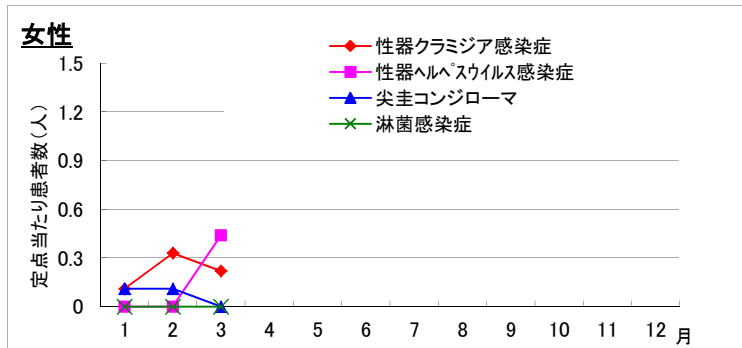
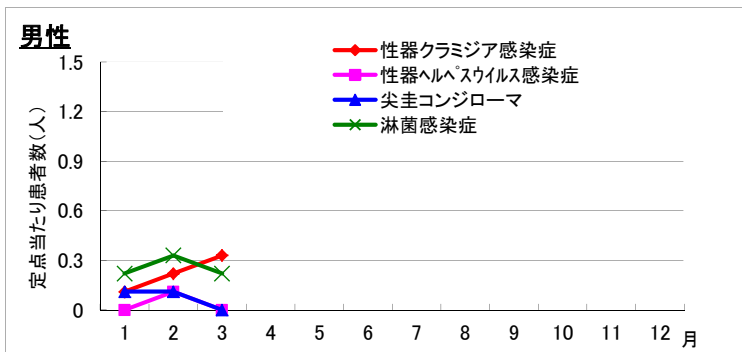
疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2	5	5										12
	定点当たり患者数	0.22	0.56	0.56										1.34
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0	1	4										5
	定点当たり患者数	0	0.11	0.44										0.55
尖圭コンジローマ	報告数	2	2	0										4
	定点当たり患者数	0.22	0.22	0										0.44
淋菌感染症	報告数	2	3	2										7
	定点当たり患者数	0.22	0.33	0.22										0.77
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72	47	65										184
	定点当たり患者数	10.29	6.71	9.29										26.29
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	0	2										3
	定点当たり患者数	0.14	0	0.29										0.43
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0										0
	定点当たり患者数	0	0	0										0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症	報告数	0	0	0										0
	定点当たり患者数	0	0	0										0



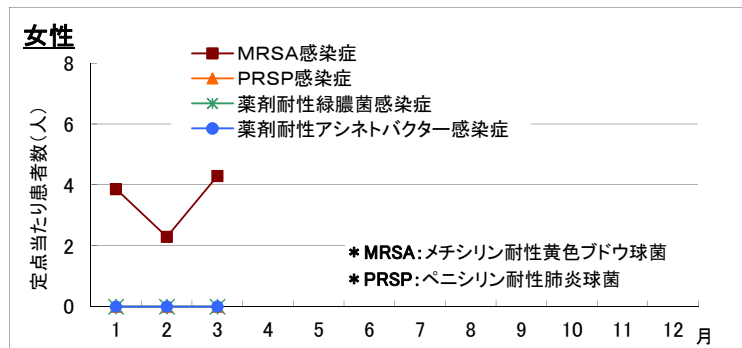
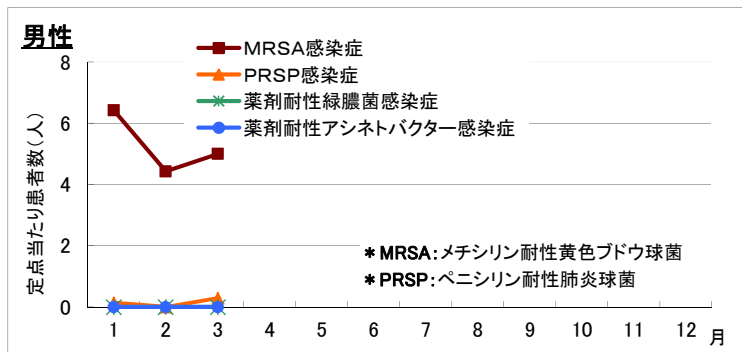
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月と比較すると、増加した疾患は性器ヘルペスウイルス感染症、MRSA感染症およびPRSP感染症で、減少した疾患は尖圭コンジローマおよび淋菌感染症です。性器クラミジア感染症は横ばいでした。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症については、先月と同様、報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況
(H24.3)



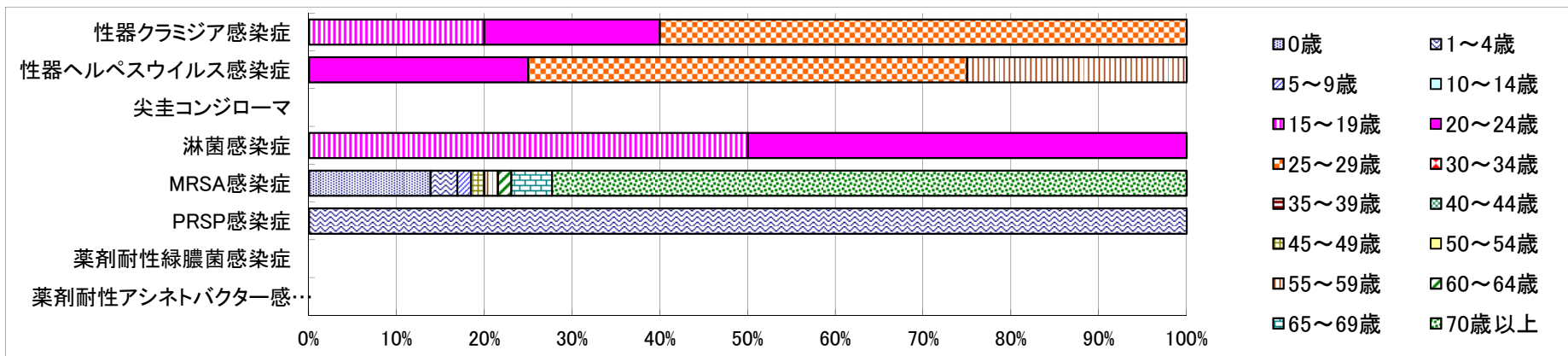
基幹定点における疾患別発生状況
(H24.3)



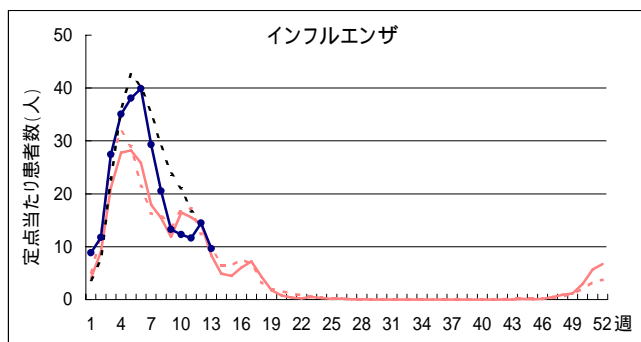
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。先月と比較すると、性器クラミジア感染症は男性で、性器ヘルペスウイルス感染症は女性で増加していました。また、MRSA感染症では男女ともに増加していました。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性感染症定点疾患の性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、15～19歳からの報告がありました。

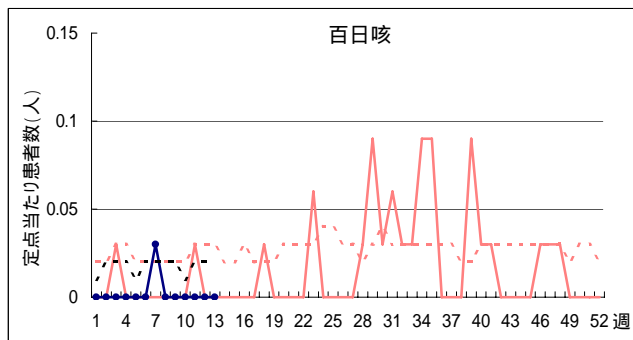
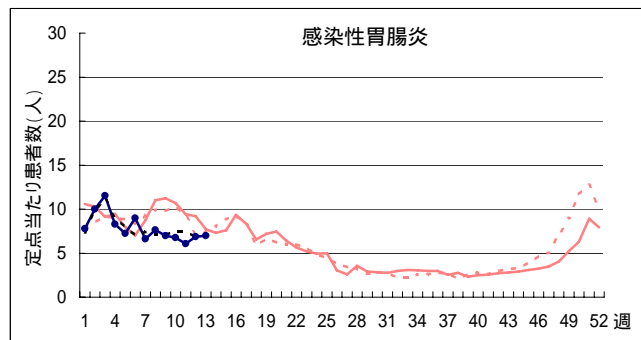
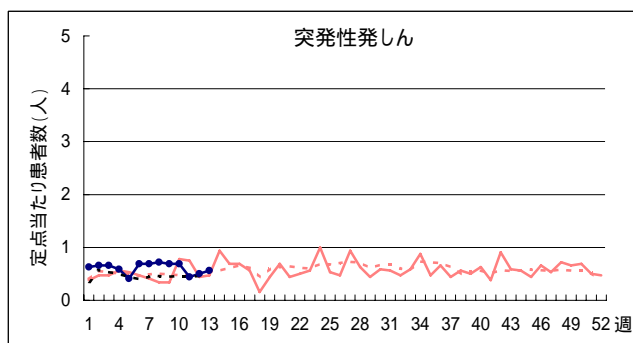
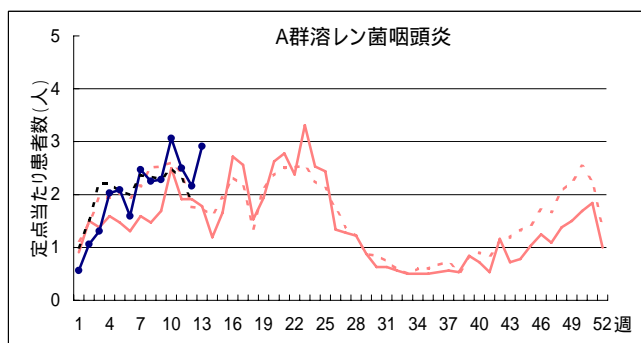
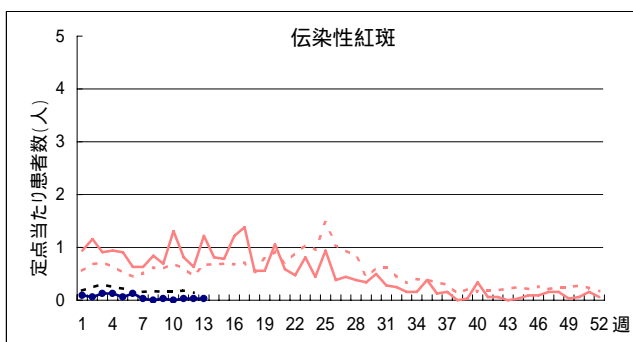
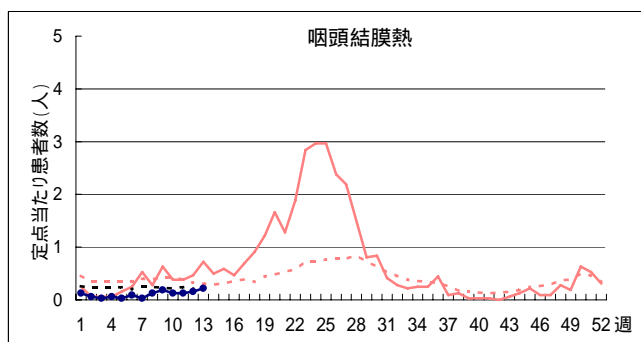
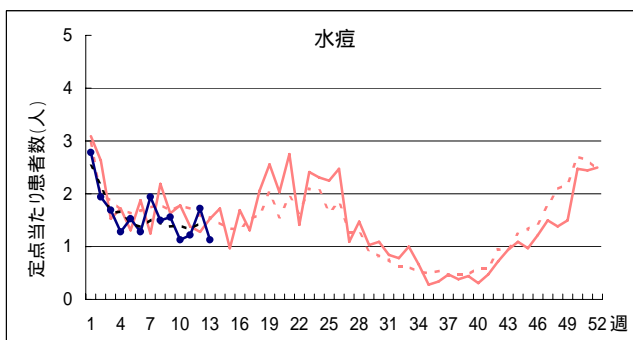
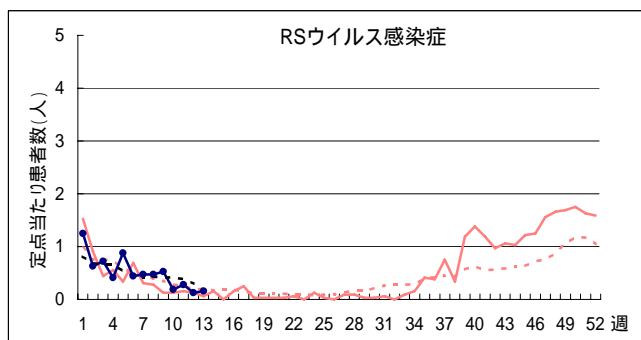
疾患別・年齢別発生状況(H24.3)



疾病別定点当たり患者数(平成24年第13週、H24.1.2～H24.4.1)



H23 { 滋賀 ————
 全国
 H24 { 滋賀 —●—
 全国



疾病別定点当たり患者数
(平成24年第13週、H24.1.2～H24.4.1)

H23 〔 滋賀 ー
全国
H24 〔 滋賀 ー
全国
.....

